

## 編集後記

雑誌名	日本文学誌要
巻	53
発行年	1996-03-24
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00019885">http://hdl.handle.net/10114/00019885</a>

## 編集後記

★ はじめに、本誌の新しい編集体制について申し上げます。

編集部は、下欄記名の四人をもつて構成し、毎号協力して編集業務に当る。ただし、その号の編集長は一名とし、その特色を出すこととする。

つまり、編集長リレーの形式をとるわけです。

★ 次の走者は、萩原一雄氏です。そこで自己紹介をしていただきます。

萩原一雄 はぎわらかずお 一九五〇年、県立静岡工高から川崎市木月の法政教養部に入學。担任は太田兵三郎（青丘・歌人）教授。最初の授業は先生の漢文『詩経』で「伐柯伐柯……」と音吐朗朗講義されたのが印象的です。学部では近藤忠義先生につき近松の世話物を勉強、五四年に卒業しました。修士課程では重友毅先生のもとで紀海音の浄瑠璃を専攻しましたが、博士課程の時は再び近藤先生のご指導を受けました。この間、西尾実先生のご推薦で私立盈進学園の教師となり、その小中高校で教えて来ました。同学園が埼玉に東野高校を新設してからはそちらに移り、現在は学園所属の教育研究所に勤めて居ります。私が法政で

教えを受けた先生方に一つの共通点があったことを最近感じています。それは言語明晰で音声が快かったということで、これは教員として非常に大切な条件であると思うのです。『誌要』編集のお手伝いをさせて頂きます。少しはお役に立てばと思つて居ります。

★ 第五四号の「寄稿要項」は五一ページにあります。

★ さて、今年もまた卒業の季節となりました。今号は、卒業して行く諸兄弟の、何かお役に立つ内容を——と考えました。

★ “そとほり通信”では、就職難の苦勞を切り抜けた先輩、専門外の分野で、自分に潜んでいた能力を引き出し成功した先輩、貧乏覚悟で自分の好きな道を歩いている先輩、それらの先輩たちの声を集めました。

★ 又、三人の先生からは、特に力のこもった論文を書いていただきました。よい記念になることと思います。

★ 今号から「展望」欄を新設いたしました。これは今後毎号、先生方から書いてもらうこととなります。

★ どうか、卒業後も、広く世界の展望に心掛け、そして自分を見失わないようにしてください。

★ 国文学会への入会、これを忘れてはいけません。  
(田中)

一九九六年三月二十四日 発行		日本文学誌要 第五三号	
編集部		坂本 勝 萩原 一雄 島本 昌一 田中 单之 杉本 圭三郎	
発行人		東京都千代田区富士見二ノ 一七ノ一法政大学八〇年館 法政大学国文学会 電話〇三(3264) 九七五二	
発行所		口座番号〇〇一六〇一七六九四三	
印刷所		ニチデン	